

日語音聲教材中之隨聲附和——以soodesuka為主

潘心瑩^{*}

摘要

在日語語音學習上，音調常是被忽略之一部分，由於語音特徵的相關記述繁雜，許多日語教科書對此部份幾乎無所觸及。然而，追求有效的語音教育方法成為近年來日語教育界教學上重要的課題之一。基於語音在意思溝通能力上的重要性逐漸升高，對於學習者學習日語語音特徵的過程的研究便格外重要與關鍵。

實際上，日語之音調為說話者表達語意重要之一環，尤以隨聲附和，其重要性更為顯著。因此，本研究就日語音聲教材之中隨聲附和（以soodesuka為中心）之音調作語音分析，希望將其語音分析之特徵應用於語音教學之上，讓學習者清楚掌握並了解其型態。

此外，本研究也將探討各音調型態所呈現之言談功能特徵，盼在釐清這些問題之後，將此思維引進語音教學之中，藉此驗證學習者是否能正確聽取隨聲附和之音調，並且辨識各語調形式所表達之言談功能。倘若教學者能徹底研究出整個學習過程的癥結，並且確實掌握此特徵，對於達到教學的目的將更有效率。

關鍵詞：隨聲附和、語音分析、語音特徵、音調

^{*}世新大學日本語文學系副教授

音声教材におけるあいづちについて

-そうですかを中心に-

潘心瑩*

要旨

これまで学習者の音声に関する研究は単音や特殊拍、アクセントなどを中心に行われてきたが、特にコミュニケーション機能に関わるポーズやイントネーションなどの音声的要素も重要なため、近年ではプロソディ研究も注目されるようになってきた。しかし、プロソディは特殊拍やアクセントより記述が困難であり、日本語の教科書ではそれに対する解説はほぼない。このようなことから本研究では、音声教材を用いてその音声的特徴を明らかにすることを目的とする。

日本語のイントネーションは話し手の気持ちを伝える重要な手がかりであり、イントネーションによって表現意図が変わる。特に日本人の会話の特徴にあいづちがあり、本研究は日本語の教科書における会話文の「そうですか」を中心に音声解析を行い、感情を表すそれぞれの「そうですか」にはどのような音声特徴があるかを明らかにし、日本語学習者が日本人との接触場面において、コミュニケーションを円滑に行えるよう、今後教育の現場で活用していきたい。

キーワード：あいづち・音響分析・音声的特徴・イントネーション

* 世新大学日本語学科准教授

1. はじめに

日本語教育では、言語の運用能力を高めるため、主に語彙、文法構造などを中心的に教えてきた。しかし、自然会話においては、発話、あいづち、ポーズなどタイミングよく現れ、スムーズに話していくが、日本語学習者の談話では間の取り方やイントネーションが不自然な場合がしばしば見受けられる。そのため、日本語母語話者が日本語学習者との会話に違和感を感じ、お互いに会話がうまく進まないこともある。日本語学習者が日本語母語話者との接触場面において、コミュニケーションを円滑に行えるため、日本語教育の一環として学習者のコミュニケーション能力を高められる視点を取り入れることが必要である。また、コミュニケーションにおいては、話すことと聞くことのみの役割でなく、会話を成立させるためには聞き手の応答や質問、あいづちなどのような働きかけも重要な要素となる。特に日本語の会話では、あいづちはよく使われ、話し手の意図を伝達する重要な役割を担っている。しかし、同じあいづちでも発音したとき、イントネーションやフォーカスによって意味が変わってしまうこともある。そこで、本研究は初級日本語の教科書で多く出現しているあいづちの「そうですか」とそのイントネーションの音声的特徴を調べ、コミュニケーション機能との関係を検討する。

2. 先行研究

あいづちに関しては従来多くの研究が行われてきた。堀口(1998)、松田(1988)、ザトラウスキー(1993)、久保田(2001)は実際の会話をもとに、あいづちとして使われている表現の種類や頻度、出現のタイミング、談話機能について提示した。これらの研究の多くはあいづちを日本語教育に取り入れる必要性があると訴え、イントネーションが意味機能を明らかにする一つの重要な手がかりとも指摘している。このように、あいづちの発話機能についてはこれまで多く議論してきたが、イントネーションとの関わりについて十分に解明されていない。日本語教育におけるイントネーション研究は、日本語の教材、日本語母語話者、日本語学習者を対象に行ったものがある。中でも終助詞を伴う文末イントネーションを取り上げたものが多い。熊野・長岡・今田(1998)は『しんにほんごのきそI』における疑問文末詞「か」を含む文（「そうですか」を除く）を日本語母語話者に読ませ、音響的分析を行った。その結果、同じ文でも男女に差が見られ、女性の方が上昇調に読み上げる傾向が多いことを指摘している。稲垣・佐藤・鈴木(1999)は熊野ら(1998)の読み上げ資料を対象に聴覚的印象から上昇調か非上昇調か判断し、音声的特徴、コミュニケーション機能、ディスコースとしての要因を分析した。その結果、

ポーズを置かない場合、速く発話する場合に非上昇は多く現れるのに対して、相手に期待をもって話す場合は上昇が多いことが明らかとなった。また質問文でも、応答、確認、あいづちなどのようなコミュニケーション機能は非上昇と発音されることが多いと指摘している。これらを踏まえて本研究は終助詞「か」を伴うあいづちの「そうですか」に着目し、「そうですか」の発話機能とイントネーションの関連性を明らかにすることを目的とする。

3. 調査の概要

本研究は、あいづち「そうですか」がどういったコミュニケーション機能を持ち、それらの音声的特徴を明らかにすることを目的とする。そのため、まず日本語教科書に提示された会話文における「そうですか」をすべて取り出し「そうですか」の発話機能について分析する。次に教科書音声資料を用いて、分析対象となった「そうですか」の音声を抽出し、ANIMO社製のSUGI Speech Analyzer v.2.0で音響解析を行い、それぞれの感情を表す「そうですか」の音声的特徴を解明する。

3.1 調査対象

近年、日本語教育ではコミュニケーションを重視するため、教科書は会話中心で作られたものが多く、音声教材としてCDが付属されている。本研究は、台湾の大学(20校)で初級段階において特に初級日本語や会話の授業で使われている教科書を調査対象とした。その結果、最も多く使われている教科書は「みんなの日本語初級」、次に「新文化初級日本語」、そして「進学のための日本語初級」、「日本語GOGOGO」の順となった。大学によってはその大学に合った教科書を出版しているところもあるが、今回はこの四つの教科書(計12冊)に絞り込む。ここで対象となった教科書の会話文のうち、あいづちの「そうですか」が提示されているのは全部で99文である。

3.2 分析の方法

まず、教科書における99文の「そうですか」の発話機能を明らかにする。ここでは堀口(1997)におけるあいづちの機能を基準とした分析を行う。堀口(1997)では、あいづちのには「聞いているという信号」、「理解しているという信号」、「同意の信号」、「否定の信号」、「感情の表出」といった機能を持っていることを指摘している。しかし、これらの会話文に提示されている「そうですか」は必ずしも一つの機能しか持たないわけではない。例えば、同意というのは、聞いて理解して初めてできることであるため、はっきり分けることができない。しかし、「感情の表出」はイントネーションやテキスト情報により、はっきり分類することができる。したがって、今回は感

情を表す「そうですか」の音響解析をし、コミュニケーション機能と音声的特徴との関連性を見る。

次に初級教科書における感情表出の「そうですか」すべてをコンピュータに取り込み、それぞれの音響分析を行った。その結果は以下となる。

4. 分析結果

4.1 「そうですか」の発話機能について

ここでは、堀口(1997)に基づき、99文の「そうですか」の発話機能を分析し、その結果を表1にまとめた。

【表1】

理解	同意	否定	感情表出	理解+感情表出	合計
72%(71)	0% (0)	0% (0)	4% (4)	24% (24)	100%(99)

表1からわかるように、本研究の調査対象となった教科書における「そうですか」のうち、71文が「理解している」という機能を持ち、これらの会話文には「同意」や「否定」を表す機能はなかった。また「感情の表出」のみを表す「そうですか」は4文あり、ほかはすべて理解し、かつ感情を表した文である。ここでは、初級日本語の教科書にある「そうですか」文の多くは「理解している」を表すものが多いことがわかった。また、感情を表すものがどういったものかは、表2にまとめた。

【表2】

驚き	喜び	疑い	同情	落胆	困惑	躊躇	合計
22%(7)	38%(12)	3% (1)	9% (3)	19%(6)	9% (3)	0% (0)	100%(32)

表2は感情表出の分類を示したものである。前節で述べたように、一つの「そうですか」に対して一つの機能のみ持つものもあれば、複数の機能を持つものもある。表1では感情のみ表す「そうですか」と理解及び感情を表す「そうですか」が全部で28文あることがわかった。しかし、感情を表すものの中には、二つの感情を表すものが2文あったため、表2では32の感情を表すこととなる。この表からわかるように、日本語の教科書においては、喜びを表す「そうですか」が最も多く提示され、次に驚きと落胆が比較的多く現れる。そして疑いや躊躇に関してはほぼ提示されていないことがわかった。

4.2 教科書における「そうですか」の音響分析

ここでは、日本語教科書の音声の音響解析を行い、音声学的特徴を巨視的に見ることとする。手順としては、初級教科書における感情表出の「そうですか」すべてをコンピューターに取り込み、SUGI Speech Analyzer 2.0でそれぞれの音響解析を行い、音声的特徴を分類した。分類の方法としては大きく二つに分かれる。あいづちの「そうですか」は「そうです」に終助詞の「か」を伴うため、全体的のイントネーションが上昇か非上昇かが重要な特徴となる。したがって、「そうですか」の「か」が直前の音よりピッチが高ければ上昇とし、低い、あるいはほぼ同じ高さの場合は非昇とする。また、上昇の場合、どこから上昇するかもポイントとなるため、文末上昇全体の最高F0を示すものを外昇とし、それに対して、文末上昇が文全体の最高F0の範囲にある場合は内昇とする。

4.2.1 驚きを表す「そうですか」

図1は驚きを表す「そうですか」で、横軸は持続時間長(ms)、縦軸は基本周波数(Hz)を対数スケールで示した形になっている。なお、各図は上段が原波形、中段がスクリプト、下段が基本周波数曲線となっている。

【図1】

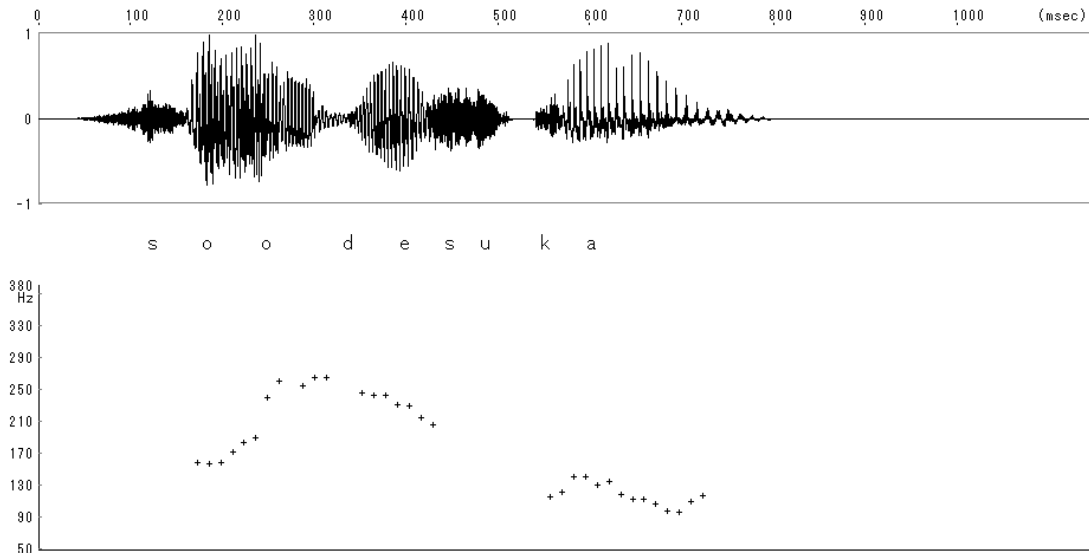


図1は驚きを表す「そうですか」を示している。この図からわかるように、驚きを表す「そうですか」では、始点〔s〕(157Hz,0ms)から〔d〕の最高点(257Hz,312ms)あたりまでなだらかな上昇をし、そして〔k〕(121Hz,489ms)まで下降している。しかし、終助詞の「か」は子音の〔k〕(121Hz,489ms)から(139Hz,597ms)まで上昇し、そして母音の〔a〕(95Hz,696ms)にかけて下降したあと少し上昇している。このように、驚きを表す「そうですか」は「そ」か

ら「で」、また「で」から「か」の高低変化はなだらかで、内昇型のイントネーションであることがわかった。

4.2.2 喜びを表す「そうですか」

【図2】

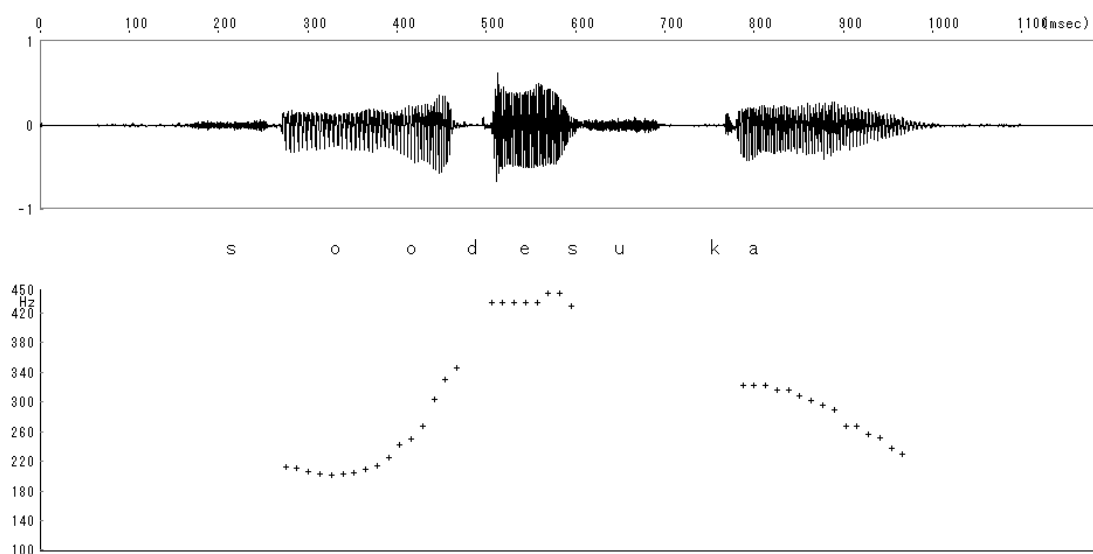


図2からわかるように、喜びを表す「そうですか」は「そ」(211Hz,0ms)から最高点(445Hz,408ms)の「で」まで急速に上昇し、その後終助詞の「か」の「k」に向けて(321Hz,614ms)まで下降し、最終的には「a」(228Hz,796ms)まで自然下降している。

このように、喜びを表す「そうですか」は「そ」から「で」までは急速に上昇、「す」から「か」までは自然下降で、非昇のイントネーションであることがわかった。

4.2.3 疑いを表す「そうですか」

【図3】

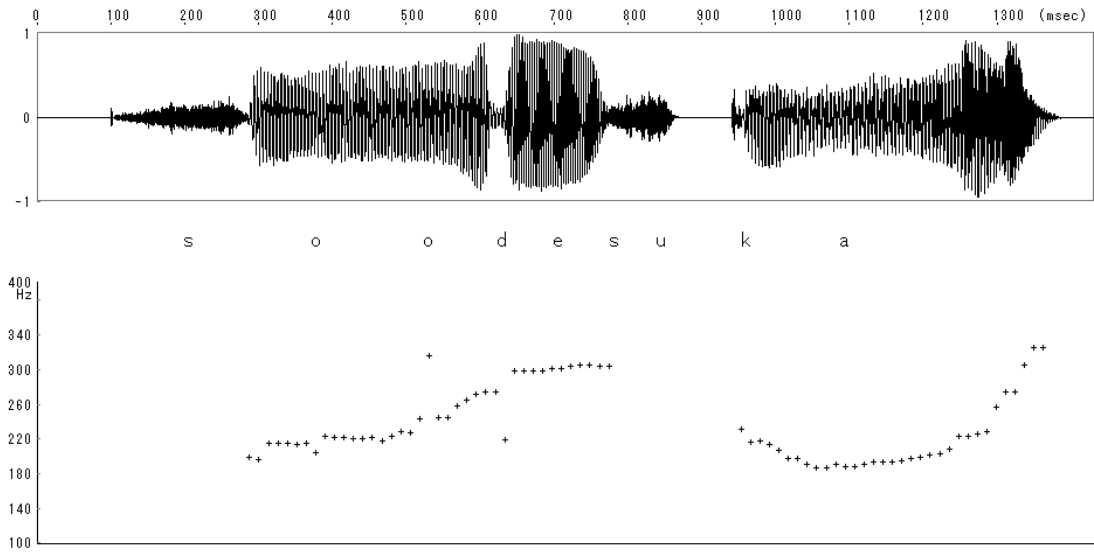


図3は疑いを表す「そうですか」を示している。この図からわかるように、疑いを表す「そうですか」は、始点「そ」(198Hz,0ms)から「す」(302Hz,673ms)までなだらかに上昇し、その後[k](215Hz,847ms)まで下降し、終助詞「か」は子音から(215Hz,847ms) 母音[a](324Hz,1261ms)まで上昇している。このように、疑いを表す「そうですか」は、「そうです」の部分になだらかな上昇であるのに対し、終助詞の「か」は急速な上昇を示し、外昇のイントネーションであることがわかった。

4.2.4 同情を表す「そうですか」

【図4】

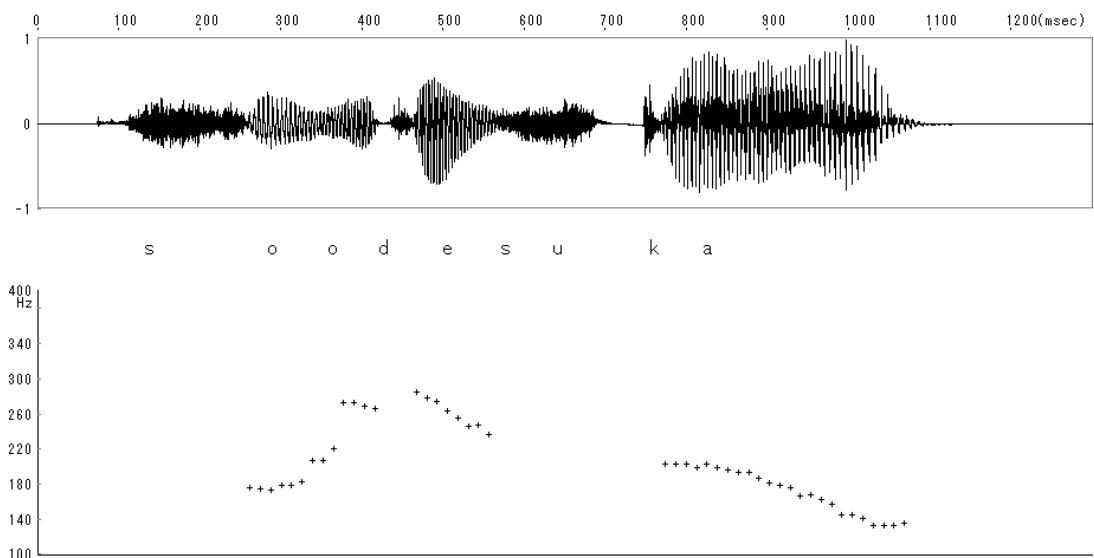


図4からわかるように、同情を表す「そうですか」では、始点〔s〕(175Hz, 0ms)からなだらかな上昇を示し、その後〔d〕のあたりまで上昇して、最高点(277Hz, 395ms)を示し、終助詞「か」の〔k〕(201Hz, 698ms)まで下降したあと、さらに母音の〔a〕(134Hz, 990ms)まで自然下降している。このように、同情を表す「そうですか」は「そ」から「で」、また「で」から「か」の高低変化はなだらかで、非昇型のイントネーションであることがわかった。また、図4と図1の「そうです」の音響図は似ているものの、同情を示す「そうですか」は終助詞「か」が自然下降であるのに対して、驚きを示す「そうですか」の終助詞「か」は上昇している。

4.2.5 落胆を表す「そうですか」

【図5】

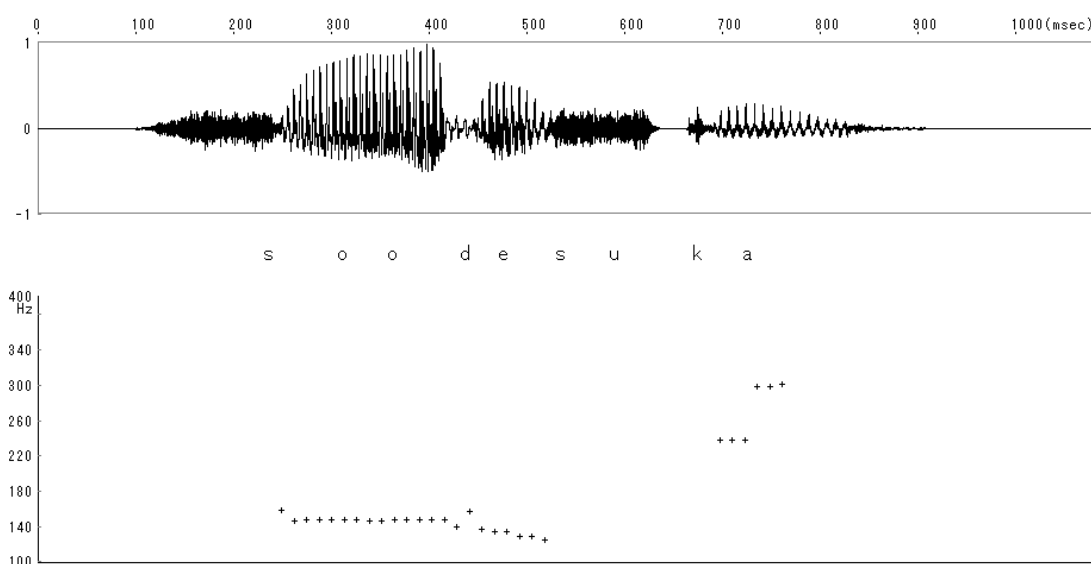


図5は落胆を表す「そうですか」を示している。この図からわかるように、落胆を表す「そうですか」は、始点「そ」(145Hz, 0ms)から「す」(123Hz, 515ms)までほぼ平調に下降し、その後終助詞「か」は(237Hz, 580ms)まで上昇している。このように、落胆を示す「そうですか」は、「そうです」の部分が平調に近く、終助詞の「か」も上昇しているとはいえ、全体的な高低変化が顕著でないことがわかった。また、落胆は内昇型のイントネーションである。

4.2.6 困惑を表す「そうですか」

【図6】

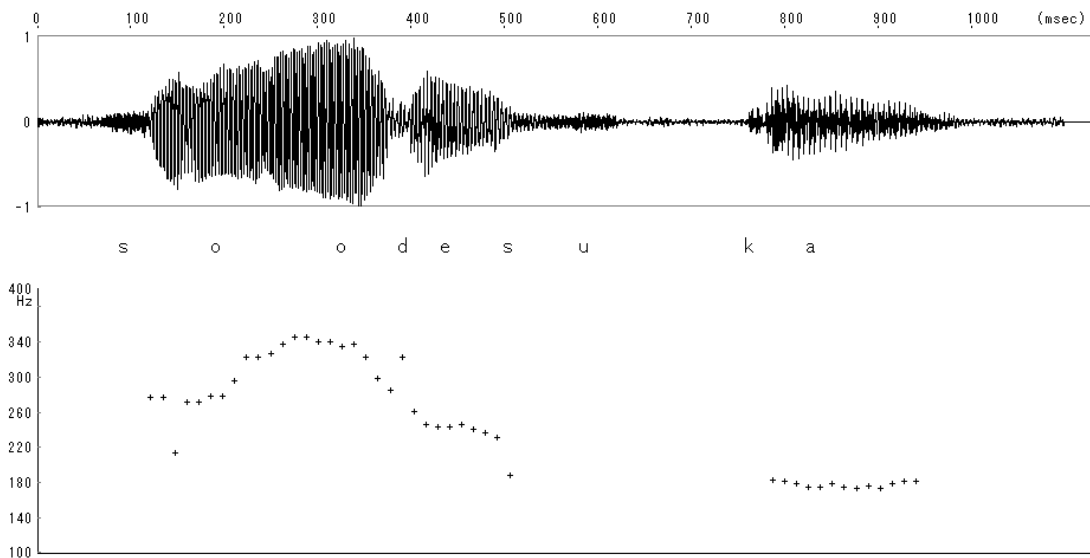


図6からわかるように、困惑を表す「そうですか」では、始点〔s〕(275Hz,0ms)からなだらかな上昇を示し、その後長音の〔o〕のあたりまで上昇し、最高点(339Hz,291ms)を示し、そして終点(182Hz,781ms)に向けて自然下降している。このように、困惑を表す「そうですか」は「そ」から「で」、また「で」から「か」の高低変化はなだらかで、非昇型のイントネーションであることがわかった。

5. おわりに

本研究は、初級の日本語教科書という限られた会話文をもとに、談話分析と音響解析を行い、次の点が明らかになった。まず、初級レベルの日本語教科書で提示されている「そうですか」のほとんどが「理解している」を表すもので、そのほかの機能としては感情を表すものが見られる。今回は99文のうち、32文が感情を表すものである。そして、感情の表出の中では、喜びを表すものが多く、躊躇のような感情を表すものはなかった。

次に、感情を表す「そうですか」の音響解析したところ、喜び、同情、および困惑を表す「そうですか」非昇型イントネーションとなる。そして、驚き、疑い、落胆を表す「そうですか」は上昇のイントネーションとなる。しかし、同じ上昇でも疑いを表す「そうですか」のような外昇型イントネーションもあれば、驚きや落胆を表す「そうですか」のような内昇型イントネーションもある。さらに、疑いを表す「そうですか」の音声的特徴としては、起伏がほかの機能を持つ「そうですか」より顕著であることがわかった。そ

れに対して、落胆を表す「そうですか」のイントネーションは平調に近い。

本研究では、あいづちの「そうですか」のコミュニケーション機能を考察し、感情を表す「そうですか」の音響的特徴を捉えることができた。今後、このような結果を音声指導に活かし、学習者のイントネーションの知覚や生成の両面で研究ができるだろう。また、今回は初級の日本語教科書を対象に調査を行ったが、実際の会話においてどのような結果がでるかも興味深い問題である。

参考文献

- 稲垣滋子・佐藤由紀子・鈴木庸子（1999）「『しんにほんごのきそ』の「か文」文末イントネーションー共通語話者の上昇調・非昇調についての聴覚的印象からー」『ICU日本語教育研究センター紀要』8 pp.1-21
- 久保田真弓（2001）「聞き手のコミュニケーション上の機能としての『確認あいづち』」『日本語教育』108 pp.14-23
- 熊野七絵・長岡順子・今田滋子（1998）「東京語の疑問文末詞「か」のイントネーション - 『しんにほんごのきそ I』の会話文の読み上げ資料の音響的分析を中心に - 」『広島大学日本語教育学科紀要』9 pp.9-16
- ザトラウスキー、ポリー（1993）『日本語の談話構造分析ー勧誘のストラテジーの考察ー』くろしお出版
- 杉藤美代子（1991）「談話分析・発話とポーズ」『日本語学』10-10 pp.19-30
- 杉藤美代子（1993）「効果的な談話とあいづちの特徴及びそのタイミング」『日本語学』12-4 pp.11-20
- 戸田貴子（2001）「パラ言語情報伝達と日本語音声教育ーあいづちの音声に関する考察」『早稲田大学日本語教育研究』1 pp.41-47
- 潘心瑩（2009）「日本語教科書における「そうですか」の発話機能とイントネーションについて」『世新日本語文研究』1 pp.125-149
- 堀口純子（1988）「コミュニケーションにおける聞き手の言語行動」『日本語教育』64 pp.13-16
- 堀口純子（1997）『日本語教育と会話分析』くろしお出版
- 松田陽子（1988）「対話の日本語教育学ーあいづちに関連してー」『日本語学』7-13 pp.59-66
- 前田喜久雄（1997）「日本語疑問詞疑問文のイントネーション」『文法と音声』
- メイナード・K・泉子（1987）「日米会話におけるあいづち表現」『月刊言語』11 pp.88-92
- メイナード・K・泉子（1993）『会話分析』くろしお出版

参考資料

- スリーエーネットワーク（1999）『みんなの日本語初級Ⅰ』大新書局
- スリーエーネットワーク（1999）『みんなの日本語初級Ⅱ』大新書局
- 文化外国語専門学校（2002）『新文化初級日本語Ⅰ』大新書局
- 文化外国語専門学校（2002）『新文化初級日本語Ⅱ』大新書局
- 文化外国語専門学校（2002）『新文化初級日本語Ⅲ』大新書局
- 文化外国語専門学校（2002）『新文化初級日本語Ⅳ』大新書局
- 日本学生支援機構東京日本語教育センター（2004）『進学する人のための日本語初級Ⅰ』大新書局
- 日本学生支援機構東京日本語教育センター（2004）『進学する人のための日本語初級Ⅱ』大新書局
- 財団法人語言測驗訓練中心（2000）『日本語GOGOGOⅠ』豪風出版
- 財団法人語言測驗訓練中心（2001）『日本語GOGOGOⅡ』豪風出版
- 財団法人語言測驗訓練中心（2002）『日本語GOGOGOⅢ』豪風出版
- 財団法人語言測驗訓練中心（2004）『日本語GOGOGOⅣ』豪風出版

